

文教福祉常任委員会研修報告

去る11月29日、文教福祉常任委員会で実施した市内視察研修について、委員会を代表して報告します。

最初に烏山小学校において「英語コミュニケーション科」の授業を視察しました。この「英語コミュニケーション科」とは「英語に親しみながらコミュニケーションの楽しさに気づき、外国や自国の文化に興味を持てる」ことを目標とし、平成20年度にはじまった比較的新しい取り組みです。

授業は、担任の先生と英語担当の先生とALTの3人のみごとな連携により、基本的には英語で進められますが、ところどころ自然に日本語やジェスチャーを交え、ストレスなく英語に親しめる工夫がされていました。楽しそうに手を挙げ、英語で元気に発言する子どもたちを見て、英語やコミュニケーションへの興味、関心の醸成に大いに効果があるものと感じました。

次に、向田ふれあいの里の視察を行いました。ふれあいの里は、向田小跡地に「高齢者の居場所」として市が整備し、地元の管理運営委員会により運営がされている施設です。運営委員会の永野会長から、現状についての説明を受けましたが、大変なご苦労はあるものの概ね順調に運営されているとの印象を受けました。関係者のご努力に敬意を表します。

今後、さらなる高齢化を迎える本市にとって、このような施設はますます重要度が増してきます。施設整備のみならず、運営の受け皿となる人材の育成にも力を注ぐ必要があると、強く感じました。

今回の研修は「委員会で話題となった市の事業の現場を実際にいくつか見てみたい」とのかねてよりの委員の意見を踏まえ実施したのですが、市の事業を肌で感じるよい機会となり、大変有意義なものとなりました。

文教福祉常任委員会委員会 副委員長 田島 信二



元気に手をあげる児童たち（烏小2年2組）